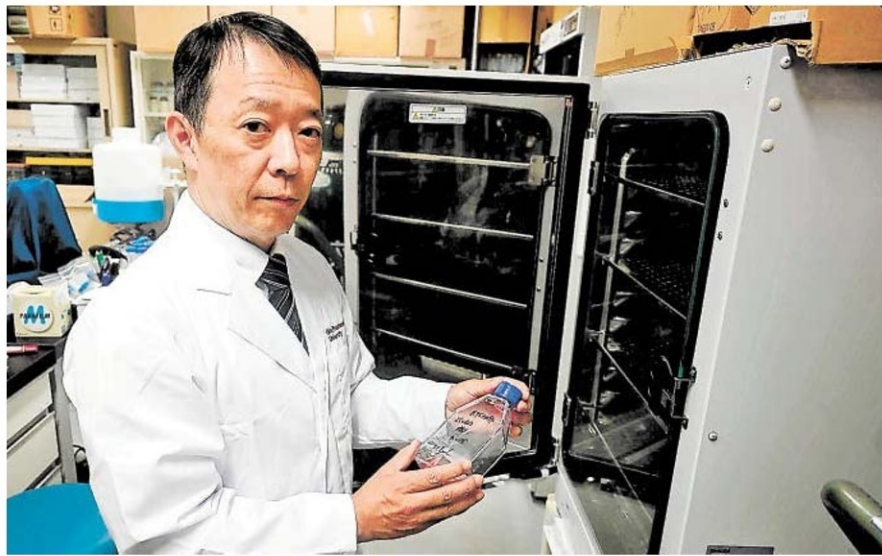


岐阜薬科大（岐阜市大学西）が、養蜂業の活性化や地域環境への貢献のため「ミツバチ科学プロジェクト」を立ち上げた。老舗養蜂問屋の秋田屋本店（岐阜市加納富士町）と連携してミツバチに深刻な被害を与える害虫「ミツバチヘギイタダニ」を減らす新たな駆除剤の創薬研究に取り組み、5年以内に新薬に使用できる化学物質の発見を目指す。

（船橋靖明）

「ミツバチ科学」 岐阜薬大で始動



プロジェクトに取り組む田中宏幸教授＝岐阜市大学西、岐阜薬科大

天敵・ダニ駆除へ創薬研究

秋田屋本店と連携、養蜂振興

ミツバチヘギイタダニはミツバチの幼虫や蛹に寄生し、栄養不足やウイルス感染を引き起こす害虫。日本を含め世界中で被害が出ており、生物多様性に関する国際的な科学者組織「IPBES」は2016年、ミツバチへの「重要な脅威」に位置付けている。

種は耐性を持つダニが出現している。残る1種も、使用できる時期が限られているなどの欠点がある。

プロジェクトでは、秋田屋本店がミツバチとダニを育成して岐阜大に提供。生物学研究室が過去の研究を参考に植物などから候補物質を選び、免疫生物学研究室が検証する。ダニによ

効き、ミツバチには大きな被害を与えないバランスのいい化学物質を探す。

養蜂は、ハチミツの生産だけでなく、ミツバチが果物や野菜の受粉を媒介するため農業や生物多様性を支える役割を担っている。免疫生物学研究室の田中宏幸教授（59）は「岐阜県は近代養蜂の発祥地。それぞれの

専門性を生かして地域の農業や生態系を支え、国際的にも役立つ薬を開発したい」と話している。